

第4回 春吉橋を核とした空間利活用に関する技術研究会

■日時 平成26年11月27日(木) 13:30~15:30	■委員 ・坂口委員長 ・立花委員 ・松永委員 ・縄田委員(代)	・植松委員 ・松本委員 ・牧角委員
■場所 第5博多偕成ビル10階 第1, 第2会議室		

出席者発言要旨

3. 那珂川の現状について(資料-1)

- ・ BOD 濃度といった水質そのものより、どのような水棲生物が棲める状態なのか、あるいはここ数年で魚が増えたというような現象面での変化のほうが、一般市民の感覚としてはむしろ重要ではないか。
- ・ 名島橋(東区名島)近辺では、日中でも魚釣りをする人をよく見かける。春吉橋辺りは今は見かけないが、住吉辺りでも以前は釣りをする人の姿があったので、このようなところも調べれば良かったのではないか。
- ・ 那珂川、博多川ともに、以前より泳いでいる魚の数は増えたように感じる。BOD 濃度もかなり低くなっているため、魚の棲む生息環境としては良くなってきているのではないか。
- ・ BOD 濃度は下がっているが、それが川の水がキレイになったというイメージにつながっていない、あるいは水質の回復と水上バスの運航や空間利活用等の取り組みが、リンクしてイメージ形成につながるような相乗効果が上手く生まれていない。そこをどうしたらよいのかというのが、提言の一番大事なところになるのではないか。
- ・ 福岡市民の親水性の低さ、つまり水に親しむという意識や機会がないといったところを変えていかないと、おそらく認知の構造、構図が変わっていかないのではないか。また、川に背を向けている中洲の店舗が川のほうに反転するくらいに、商いの意識も変えていく必要があるし、市民もそれと一緒に変わっていかないと、数値向上やハードウェアの整備だけでは成果は限定的になるのではないか。
- ・ 西中洲側あるいは春吉側のお店は、那珂川を十分に活用していて、店内から那珂川や中洲の夜景を楽しめるが、一般の人が自由に歩いて川を楽しめる空間にはなっていない。一方、中洲側に歩道は整備されているが、お店は全部川に背を向けているため、店内から風景を楽しむことは出来ない。難しいと思うが、歩行者も店内からも川を楽しめるような工夫があり得ないか。
- ・ フィッシュウォッチング風なイベントを、毎年子供達と一緒に行えば、川がキレイになっていろいろな魚が戻ってきたという事を話題に出来るのではないか。
- ・ これまでは司々で個別に整備がなされてきたが、それを繋いだストーリー付けやイメージ形成というのが弱かった。今後の春吉橋の付け替えをきっかけに、それが本当に川で福岡市全体の新しいイメージ形成を図っていくといった、統一感をもった動きにする、いわゆるリバーネサンスに向けた提言が必要ではないか。

4. 春吉橋を含む国体道路の交通状況について（資料－2）

- ・ 春吉橋について、利用者の動きを見てみると、通過するばかりで橋の上にとたずむ人が全然いない。景色は良いはずなのに、たたずみたいという雰囲気になっていないのではないかな。もう少し、欄干にとたずみやすいようなかたちを、総合的に考えるべきではないかな。また休日は女性の利用が多いことから、橋をひとつの交流の場所と考える時に、女性がたたずむあるいはベンチに座ったりしやすいというのは非常に重要。だから橋だけを整備するのではなく、周囲とコラボするような橋でなければならないのではないかな。
- ・ OD 調査結果から、春吉橋というのは回遊のターミナル、つまり博多駅・天神・中洲川端という3つのポイントのどこからでも、どこへでも行ける結節点、まさに福博を繋ぐ機能を担っている場所だという事が分かった。
- ・ 女性が好きな場所は、最近ではキャナルシティよりも櫛田神社の方が上位という前回のアンケート結果もあるので、博多駅からぶらぶら歩いてキャナルシティを見て櫛田さん参ってとか、あるいはその前に祇園の辺りの承天寺や聖福寺を歩いてというような回遊が出来てきている感じが、OD 調査結果から読み取れた。
- ・ 休日、博多駅から天神に向かう女性がいるという OD 調査結果から、その中間点にある春吉橋が、休んだりくつろいだり楽しみをもたらすような空間であれば、ロングトリップを上手く活用できるのではないかな。
- ・ そういう意味では出発地でもなく目的地でもなく、トランジットな場所、ひと休みの場所、次どこに行こうかというのをちょっと思案する場所なのではないかな。この面白いデータを今後どういう風に展開していけるかが大切ではないかな。

5. 橋上公園（勝山橋）の活用事例について（資料－3）

- ・ 橋だけでなく周囲にも活用できる空間をつくらなければならないといった時に、護岸整備とも連携して、春吉橋周辺が一体化した空間を形成する必要があるのではないかな。別大国道（国道10号大分～別府間）で使用された、波返しの機能を持つフレア護岸の張り出した天端部を、歩道として活用している事例のように、護岸としての役割を果たしながら広場も形成して、それが春吉橋と一体となるような工夫は出来ないかな。また、勝山橋（小倉北区室町）の上流にある水環境館は、護岸の一部をアクリル製にして、河川の現状を観察できる観察窓として活用することで、機能を持たせながら紫川がキレイになって魚がいるのを、実際に見てもらおうという事例のように、県で行っている護岸整備とあわせて工夫すれば、更に人が集まる空間が出来るのではないかな。
- ・ 勝山橋はイベントを行わないと人が寄ってこないという違いはあるが、春吉橋は日常的に人の往来があるので、そこにイベントをかぶせると、更に面白くなるのではないかな。
- ・ 北九州市は、前市長が橋に相当なこだわりを持って様々な橋を作ったので、橋を話題化するための取り組みも、イベントやコンクールなどいろいろとされたと思う。このような取り組みによって、これまで市民がほとんど気にしていなかったものが、紫川とセットで意識に上がってくるようになったという、このプロセスを調べれば参考になるのではないかな。
- ・ 紫川賑わいづくり実行委員会の発生の経緯を参考にすべきではないかな。
- ・ 勝山橋の整備にあたって、どのような法律上の制約があり、どのようにその規制をクリアしたのかという手段や取り組みの経緯を調べれば、今回の春吉橋の整備にも活かされるのではないかな。

- 地下鉄七隈線の延伸で中間駅が出来た時に、周辺の交通流がどのように変化するか、あるいは中間駅の需要予測をどのようにされているか、つまり新しい春吉橋と地下鉄中間駅とがどう連携していくのかというのがひとつのテーマだったので、その利用者がどうなるのかという予測は、議論する上で必要ではないか。